



五郎沼通信

第11号 平成28年2月1日発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656 (FAX兼用)
携帯：090-2270-6771
m-mail：segawa@mineo.jp
Pcmail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

桜の枝払いと 周辺整備をしました

今年も桜の保全のために、テングス病・徒長枝の枝払い（五郎沼通信第3号参照）及び、前回は話しをしましたカワウソタケのそぎ落としをしました。また、沼の入口付近と駐車場の小さい虫被害木・経塚跡の樹木の伐採など今回は多岐にわたり整備しました。
左側写真は、前号でご案内した西側堤体にある桜の中でも一番弱っていると思



テングス病の枝払い



【26番目桜】カワウソタケそぎ落とし



徒長枝の伐採



【26番目桜】トップジンM塗りつけ



この冬最低（-8℃）だったので氷上で作業ができました



【26番目桜】春に花卉が一輪でも多く咲くことを祈っています

われら「26番目桜」です。今回は氷も張っており、沼側からも作業が出来る状態でしたので、カワウソタケのそぎ落としが万遍なく出来ました。

純白の桜

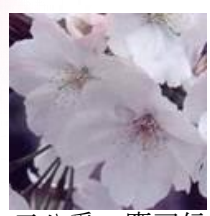
…桜の種類は300種以上あるとのこと。今回は「純白の桜」です。

白妙（シロタエ）
花形：八重咲
花の大きさ：大輪
開花期：4月中旬



シロタエの名から純白の花と思われがちだが、花卉の外側には薄い紅色が少し出ている。

太白（タイハク）
花形：一重咲
花の大きさ：大輪
開花期：4月中旬



イギリスで作られた品種。元公爵、鷹司信輔がこのように命名した。海外でも多く植栽されている。

白雪（シラユキ）
花形：一重咲
花の大きさ：大輪
開花期：4月中旬



黒褐色の果実を多く結ぶ。

琴平（コトヒラ）
花形：八重咲
花の大きさ：中輪
開花期：4月中旬



香川県琴平町の金毘羅宮の参道に原木があったことがコトヒラの名前の由来。

緑萼桜（リョクガクザクラ）
花形：一重咲
花の大きさ：小輪
開花期：4月下旬



萼と若芽が鮮緑色、花卉が純白と、いかにも清楚な感じの花が咲き、ミドリザクラとも呼ばれている。

松くい虫被害木の伐採しました

五郎沼駐車場の入口付近の松くい虫被害木伐採をしましたら、景観がやはり緑が少なくなったためか、だいぶ様変わりをしました。松があった時はあまり感じませんでしたが、1番目桜と2番目桜の間隔が他の場所と比較しても大きく開いていました。そこで、来年度事業として今回の跡地に桜の植樹をしたいと考えています。



手際の良いチェーンソー作業



みんな協力して作業しました



道路の沼側ではなく、松の伐採後の境（下のライン）に植樹予定

1番目桜も、どうしても車の出入り口であり、根っこに栄養が行けない状態のため、かなり弱っています。

昨年春の入口付近

***** お知らせ *****

ユーチューブ (youtube) で五郎沼・古代蓮が見れます！

パソコンの無料動画サイト「ユーチューブ」に、昨年7月に行った「駅からハイキング」の参加者が、下記の名称で動画投稿しています。
JR東日本「駅からハイキング」日詰駅(いつでもコース) 2015/07/20
 (「駅からハイキング 日詰駅」だけでもヒットします)
 または、下記URLを直接入れても見れますよ!!!

<https://www.youtube.com/watch?v=cd-Mdv8HdiQ>



桜の間隔が開いています。

大沼のぬし (紫波郡昔話より)

あつたぢもな……
 或男は大沼のきしを通って来ると、沼の中から美しい姉様は出て呼び止るから立留ると、姉様は「五郎沼さ行って手とタンタンと叩くと男が出るから、其の男さ此手紙を渡してくれろ」と手紙を頼まれた。



大沼のきし

そこで或男は何気なく頼まれた手紙を持って街道を来ると、途中で心易い茶屋の亭主に呼ばれて立寄たら、「今時何處(どこ)さ行く」と聞かれ、



茶屋の主人

「實(じつ)は大沼の姉様から手紙を頼まれて五郎沼の男さ持て行く所だ」と言ふと、茶屋の亭主は不審に思つてその手紙をあげて見たらば、

「この者は紫けつ(尻)だに依(よ)つて取つて喰へ」と言ふ手紙なのであつたが、亭主はそれと「此者さ金子百両を渡せ」と書き直して持たせてやつた。



紫けつ(尻)の男

その或男は五郎沼さ行き手をタンタンと叩くと、沼の中から立派な男は出だから、それさ持て行た手紙を渡したら受取つて見て居たが、「一寸待つてろ」といつて

五郎沼 主

沼の中さ這(は)入り、すぐに金子百両を持って出で来て渡したので、それを持って茶屋さ引返し亭主と二人で山分をしたごさ。
 ……どつとはらい。

柳田國男の本棚・紫波郡昔話集より
 (絵・YS)



百両

【編集後記】
 図書館に3冊ありました「紫波町の昔話」に「大沼のぬし」があり、微妙に言葉づかいは違つてましたがストーリーは同じでした。
 短いお話ですが、「ぬし」はどういう容姿なのか検討もつかなかつたため「五郎沼通信」に何回か出演している「ゴロツシー」にしてみました。(ちよつと怖い話しでもあるので、明るく楽しい「五郎沼」のイメージで、こんな絵柄にしてみました。勝手にすみません)